

	学校だより 令和6年3月 No.14 今年度最終号
	学校教育目標 ○あたたかい心 ○よりかしこく ○よりたくましく

祝 卒業

戸村達男

3月25日の卒業証書授与式。192名の卒業生が所沢小学校を巣立っていきます。
今年の卒業生も、すてきな子どもたちでした。本当に下級生の見本となってくれた、立派な6年生でした。

「ローマは1日にしてならず」、そして「所沢小学校のよき伝統も1日にしてならず」です。
下級生への優しさやあたたかさ、話を聞く態度、堂々とした姿といった、いわゆる学校のいい雰囲気（伝統）は、そう簡単に出来上がるものではありません。少なくとも私が見てきた4年間の卒業生たちは毎年、それぞれ立派な姿を後輩たちに示し、いい伝統を伝え続けてくれています。
最上級生が見せる真剣な学びの姿、行事に熱く燃える姿、縦割り班で下級生に優しくする姿。これが5年生をはじめとする下級生に伝わり、自分たちも頑張らなくては、と感じ、そして実際に立派な最上級生に成長する。プラスのスパイラル（循環）が生まれているような気がします。
卒業生のみんな、いい伝統を引き継ぎ、そしてさらに高めてくれて、どうもありがとう。
今後のさらなる成長を心から願っています。

成長をほめてあげてください

3学期の通知表「あゆみ」をご家庭に持ち帰ります。このあゆみは、学校での子どもたちの様子をお知らせするものです。ぜひ一緒に読んで、子どもたちのこの1年間の成長を認めてあげてください。

「毎日コツコツ努力してたもんね。」
「すごいね。目標を達成できたね。」
結果ではなく、努力やプロセスを認めてもらえたり、自分の目標をわかった上で認めてもらえたりすると、自分のことを理解してくれているんだなあ、と実感できます。

「ここがあなたのいいところだね。」
「あなたのいいところを先生も認めてくれていて、うれしいね。」
自分が意識していない、思いがけないことを認めてもらえると、びっくりするけどうれしいものです。

「すごいね。どんなところに気をつけてがんばったの？」
がんばったことを聞いてもらえたら、子どもたちはきっと自信満々に話してくれると思います。
「そんなこと考えていたんだ」と、親が見えていなかったがんばりに気付けるかもしれません。

一般的には、次のようなほめ方をするとよいとされています。

- 結果ではなく、努力やプロセスを認める。
- 人と比べない。
- 100点を求めない。
- できないことに注目するのではなく、できるようになったことを認める。
- 上から目線でほめるのではなく、同じ人間として共感し、励ます。
- 喜んだり、うれしいという気持ちを伝えることは、ほめているのと同じ。
- 質問作戦でほめる。

「一番がんばったのはどんなこと?」「そう。〇〇をがんばったのね。ママもうれしいわ。」
活字にすると、照れくさい感じになりますが、でも、子どもたちにとっては、自分の親からの称賛や励ましは何よりの心のエネルギーです。

6年生にとっては小学校生活を終える節目、他の学年の子どもたちにとっても1年間のまとめの時期です。ぜひお子さんとじっくり向き合い、成長を認め、共感し、一緒に進級進学を喜びましょう。

令和5年度の終わりにあたり、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に、深い愛情と多大なご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。令和6年度もよろしく願いいたします。

昭和46年度卒業の皆様へ

校庭に立派な日時計があります。
「昭和46年度 卒業記念」と書かれていますので、今から52年前に設置されたものです。
これまでも補修を繰り返してきたと思われませんが、かなり傷んできており、大きな穴が開き、ひびも入ってしまっています。



この日時計には、こんな素敵なメッセージが記されています。

「世界中 友だち 仲よく
友よ いつか ここで また会おう」 粕谷校長

こんなメッセージが記されていることを踏まえると誠に忍びないのですが、補修するとなると費用もかなりかかると思われます。安全管理上、撤去の方向で検討させていただきたいと考えております。ご意見等ございましたらお知らせください。

※粕谷庄助 元校長先生 昭和45年4月～昭和47年3月まで在職